設計・計画部門

三宅伸幸（みやけ のぶ ゆき）

生年月日　1982年１月愛知県生まれ
最終学歴　2006年三重大学大学院工学研究科建築学専攻博士前期課程修了
業務経歴　2012年㈱安井建築設計事務所入社
現在、名古屋事務所設計部主任

●担当した主なプロジェクト
2012年　大府市駐車場整備
2013年　あいち小児保健医療総合センター救急棟
2014年　某市立医療センター新病棟

■青年技術者のことば

建築の秩序の創造
～建築主と協議・共有するプロセスと成果～

建物の設計は、間接的にしか関われないと常々思う。機械の設計は、設計した通りに動き、それが持ち主の思いに応えるのに対し、建築のそれは少し異なる。建築は空間の輪郭を作り出すことで、その空間を利用するのが利用者である為である。

利用者にうまく利用してもらうこと、満足してもらうこと。導き出した手法は、建築主と共に、秩序を作り出すこと。秩序を導き出すため、設計から監理の過程で、建築主と協議・共有し、成果として形にすること。

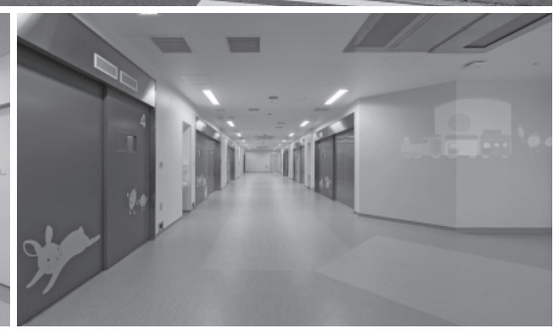
その過程で、ある時は、建築主にワーキンググループを立ち上げてもらい、ある時は、実寸のモデルルームで検証を行う。また、ある時は、すべての部屋のサンプルボードを作り、手書きパースを何枚も用意するなど。どのように使うのか、誰が使うのか、その為には何が必要なのか、といったことを共に考え答えを導き出す。こうした全てで、建築主と多様な検討を重ね、価値観の共有、秩序の創造へと向かう。

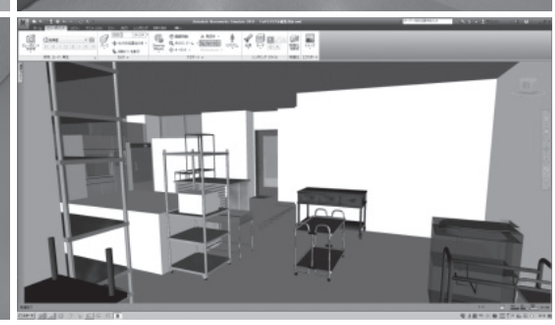
秩序は、建物の魂のようなものだと思う。建築主との協議の結実が確かであれば、きっと上手く稼動する。仮に上手く稼動できない時は、ブラッシュアップをサポートする。

これからも、建物に各々の秩序が宿るよう、設計を行いたい。

■すいせん者

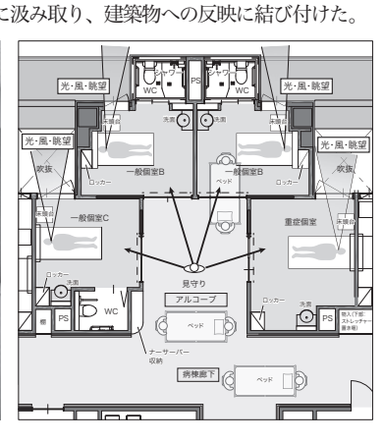
篠原佳則
㈱安井建築設計事務所
名古屋事務所　副所長　企画部長





あいち小児保健医療総合センター救急棟

小児３次救急医療機関としての、救急、手術部、小児ICU、ヘリポート、免震構造といった高度な診療環境と共に、療養環境との調和を図った建築物。院内スタッフや学識者等と療養環境ワーキングを立ち上げ、プレパレーションの在り方を観点に、施設のイメージマップや探検の物語を作り出し、カラースキームはじめ、壁面装飾やプロジェクションマッピングに展開し、子どもたちを励まし勇気付ける環境づくりに結び付けた。また、建築モデルと医療機器モデルとを統合したBIMを作成し、視覚的に分かりやすいメディアを用意することで、建築主（スタッフ等）の意見を丁寧に汲み取り、建築物への反映に結び付けた。



某市立医療センター新病棟

都心部の急性期病院における、高度医療の診療環境と患者の療養環境の調和を図った建築物。現地建替えの限られた建設範囲において、コンパクトな病棟を計画。１床室はアルコーブ付き個室群として計画し、看護の多床室的な見守りやすさと看護動線の短縮化を実現。アルコーブは、小さな看護拠点となると共に、ベッド搬送時のすれ違い空間として活用できる。また、収納や掲示コーナーを設け、個室の外側に緩衝空間として、生活の広がりを作り出させるように計画している。